

らいび
LIVE 創 REATOR
つくりえいた

NO.50
2010年5月
研究広報誌

学びの質の高まりをめざして

CONTENTS

- 発刊にあたって「学びの質の高まりをめざして」・・・・・・・・・・ 1
- 本校の研究について・・・・・・・・・・ 2・3
- 教科部紹介・・・・・・・・・・ 4・5・6・7
- 共同研究開発校・スタッフ・・・・・・・・・・ 8

学びの質の高まりをめざして

～「吟味を生み出す対話」をつくる～

和歌山大学教育学部附属小学校長 川本治雄



私たちは今までの研究成果をまとめ『質の高い学びを創る～新学習指導要領を超えて～』（2009年10月）を東洋館出版から出版することができました。過去4年間による研究の軌跡を明らかにしながら、新たな地平を切りひらこうと取り組んできました。

本年度は、昨年度の研究テーマ、「学びの質の高まりをめざして～課題に向かう対話を深める～」をさらに発展させるため論議を重ね、子どもの実態をふまえながら、「吟味」をキーワードに、これまでの研究実践から見えてきた課題へのアプローチを図りたいと考えています。まず、子どもの学びの質を一層高めていくために、子どもたちが織りなす対象・他者・自己との三位一体の対話の中に、対象の本質や価値・真理などに迫るための「吟味」を生み出すことによって、学びの質の高まりを追究しようと考えました。そこで、私たちは、学びの質の高まりを支えるものとして「学級風土」「みとりと支援」「プロジェクト型学習」「共同的な学び」の4つを重視し検討を続けてきましたが、昨年度の「課題に向かう対話を深める」というサブテーマに基づいた研究の成果を生かし、本年度は、「自己の課題」を「学びの質の高まりを支えるもの」として位置づけました。

自己の課題を持って対象と対話することによって、対象のとらえ方がより深く、またより広くなり、さらに他者と課題を共有することによって、以前よりも対象を深く認識することにつながっていきます。

さて、「吟味」することは対象を念入りに調べ、調べたことをもとに選ぶことです。対象への思いや考えを持った理由や根拠を検討し合い、比較し合うことを通して、対象の本質・真理や価値に迫ることができます。そして、新たな対象への思いや考えの理由や根拠を明らかにして、再び考えをめぐらせ、自己の認識を高めるような質の高い学びをめざしたいと思います。

今日、附属小学校における日常的に展開している体験的活動を重視した取り組みとあいまって、実践研究の内容がそれぞれの教科や分野で積み上げられ、その成果を確認しつつあります。本年、10月30日（土曜日）には、記念講演講師に秋田喜代美先生（東京大学大学院教授）を迎え、研究発表大会を予定しております。公開授業に基づく授業研究会をはじめ、教材に関わる基礎的な研究や教育内容と教育方法に関する研究など多くの先生方との「対話」を通じた実践研究会になるよう努めてまいります。

また、6月の複式授業研究会、7月の教科領域別に取り組む夏季研修会も引き続き開催いたしますので、多くの皆さんの来校を心よりお待ちしております。先生方のご意見・ご批判を受け止めながら、ゆっくりと、しかし着実に研究会の成果を確認し、互いに共有できるものを創造していきたいと考えています。

★本年度の研究テーマ

学びの質の高まりをめざして ～「吟味を生み出す対話」をつくる～

研究主任
須佐 宏



我々は、これまでの研究において、「学びの質の高まり」を支えるものとして、

1. 聴き合い、学び合える「学級風土」をつくること。
2. みとりと支援を積極的に行うこと。
3. プロジェクト型学習をつくること。
4. 小グループによる協同的な学びを進めること。



の4つを大切に、昨年度は特に「ジャンプのある学び」を追究するために小グループによる協同的な学びに焦点をしばってきました。また、学びを対象・他者・自己と対話することで熟成される三位一体の活動であると考え、実践を重ねてきました。「授業の成立」から「学びの成立」への意識転換を図り、子どもに寄り添い、一人ひとりの学びから学級全体の学びを見ろという考え方をとってきたのです。さらに、正しい価値判断をもつこと、主体的・創造的な行動ができる資質や能力を育てることを目標に、学びの過程を重要視することで、子どもたちがより対象の本質や価値・真理などに迫ることができるようにしてきました。

また、学習課題を、子どもたちから生み出されてきた問題の中から設定し、子どもたちが対象にどのような問題意識をもっているか、その教材の内包する価値は何か、ということ

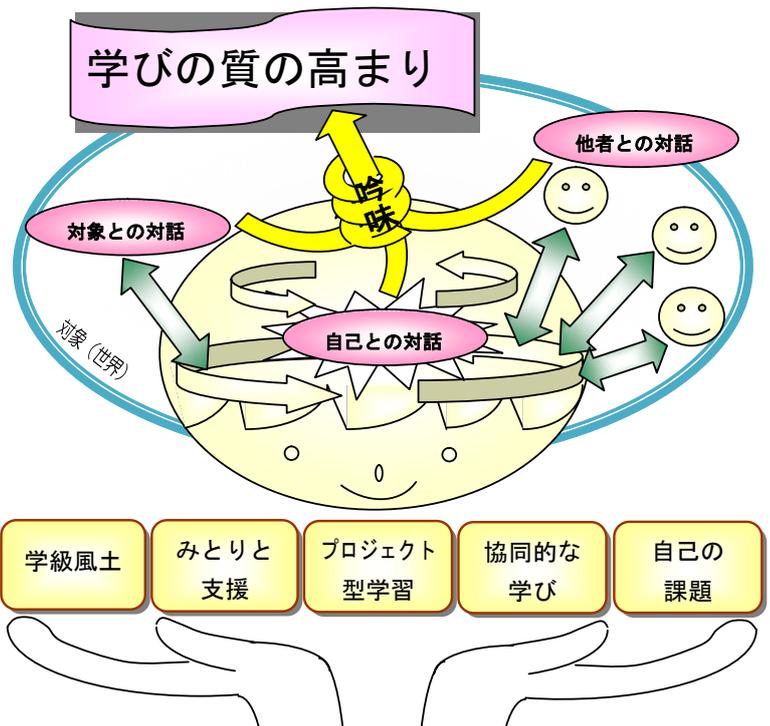
を的確に把握し、ジャンプして手の届くようなもの、多方面からのアプローチが可能なものになるように心がけてきました。そうすることで、子どもたち自身が自己の課題をもって学び、対話を深められるように実践をすすめてきました。

しかし、昨年10月の研究発表会において、秋田喜代美先生（東京大学大学院教授）から「言葉の吟味・考えの吟味がなされなければならないのではないか。」というご指摘いただきました。この点については、子どもの学びの質をよりいっそう高めていくためにこれから取り組むべき課題であり、子どもたちが対象・他者・自己の三位一体の対話の中に、対象の本質や価値・真理などに迫るための吟味を生み出すことによって、学びの質の高まりをめざそうと考えました。

また、2010年2月に全校児童を対象に実施した「学びのアンケート」より、自分の意見を言うことができるかどうかではなく、友だちの考えをじっくり聞きたい、理解したいと思っている子どもの割合が高くなってきていることがわかりました。さらに、話し合いで友達の考えと自分の考えが違うとき、自分の意見をおしつけたり、

すぐに変更したりする子どもは少なく、お互いの考えを合わせたり、もう一度じっくり自分の考えを見つめなおしたりする子どもが全体の約70%いることもわかりました。その一方で、理由の話し合いをすると答えた子どもは全体の約18%にとどまっていました。これらのことから、「学びの質の高まり」を支えるものを、「自己の課題」を加えた5つとし、今年度の研究主題を「学びの質の高まりをめざして～『吟味を生み出す対話』をつくる～」と設定しました。児童が対象への思いや考えをもった理由や根拠を表出し、同様に他者の思いや考えをもった理由や根拠を聞き、互いに比較検討し合うことが吟味に値し、そうすることで、対象の本質・真理や価値に迫ることができると考え、実践研究をしていくことにしました。

今年度は、教職員一同“総和”というキャッチフレーズのもと、より一丸となって真摯に学び合い、質の高い学びを実現していこうとしています。そして、実践研究の一端を公開することによってさらに研鑽を深めていきたいと考えています。今年度の研修会・研究発表会等の予定は次頁の通りです。ぜひ和歌山大学教育学部附属小学校へ足をお運び下さい。



第10回複式授業研究会

◇2010年6月18日(金) 10時40分～16時30分

お申し込みは web (<http://www.aes.wakayama-u.ac.jp/>) または FAX (073-436-6470) まで

夏季教科領域別研修会

◇1日目：2010年7月29日(木)

《午前の部：9時30分～12時00分》

国語：今年も和歌山市国語教育研究会との共催で実施します。午前の部では共同研究開発校による実践紹介と午後からの研修の教材研究をします。

生活・総合：“よりよく問題を解決するための資質や能力を育むために”実践発表・ワークショップ・講演(市川純夫先生：和歌山大学)の3本立てで和歌山市の生活科・総合の教育研究会との共催で行います。

外国語活動：来年度から全公立小学校で開始される外国語活動の授業展開についてワークショップを行います。

学校保健：肥満傾向児童への保健指導の実践紹介の後、本山貢先生(和歌山大学)を迎えてワークショップ形式で効果的な保健指導を楽しくおもしろく考えたいと思います。

《午後の部：13時30分～16時00分》

国語：丸山範高先生(和歌山大学)を迎えて、本校の校内研究授業のビデオ検証を行います。教師の発問の意図やその時の子どもの動きを皆さんと一緒に追いたいと思います。

社会：今年もゲストをお招きし、「仕事へのこだわり」などを教えていただきます。

後半は、地域教材についての単元計画案を練り、社会科学習について話し合います。

理科：共同研究開発校と本校の実践発表を通して、学習指導要領の改訂にともなう“理科の学び”を考えていきます。

◇2日目：2010年7月30日(金)

《午前の部：9時30分～12時00分》

図工：今年度は、和歌山市小学校図工教育研究会との共催で行います。永沼理善先生(和歌山大学)を講師先生に迎えて、一緒に楽しんでもらえる実技研修を計画しています。

音楽：新学習指導要領本格実施を来年に控え、今、取り組まなければならない音楽科の課題について、本校の実践報告をもとに、佐野靖先生(東京藝術大学教授)に講演して頂きます。

複式：本校における1学期の実践紹介のほか、複式学級経験者による複式授業のお話や参会者を交えた実践交流会を考えています。

《午後の部：13時30分～16時00分》

算数：本校で1学期に行った実践紹介と講師先生を迎えての講演会を予定しています。

家庭：前半は「生活力を育む」をテーマにした授業実践紹介、後半は「粒食と粉食」をテーマにした「米の変身」の授業実践から実際に米粉を使った調理実習を体験していただきます。

体育：本校の今年度の実践をもとに、豊かな吟味を生む支援のあり方を皆様と一緒に考えたいと思います。

※お申し込みは 次号にて詳細お伝えします。また、本校ホームページ (<http://www.aes.wakayama-u.ac.jp/>) でも随時情報を提供していきます。

平成22年度教育研究発表会

◇2010年10月30日(土) 講演 秋田 喜代美先生(東京大学大学院教授)

※ご参会いただいた皆様大変ご好評であった ICT 活用授業研究会は、今年度実施しません。本校における ICT の日々の活用の様子や研究内容についてホームページ上で皆様に発信することで、今まで以上に皆様と密な交流を行い、研究を一層進めてまいりたいと考えております。本校ホームページの更新にご注目ください。

教科部★紹介

国語科 「発想力」「論理力」「表現力」を育てる ～言葉と言葉や文と文のつながりを意識した対話を通して～

今年度、国語科部では「つながり」をキーワードに学びの質を高めていきたいと考えています。教材中の言葉や文に着目するだけでなく、それらがどのように、どこの言葉や文とつながっているのかをくわしく吟味していくなかで、「発想力」「論理力」「表現力」を育てていきたいと考えています。また、友だちの解釈と自分の解釈をつなげることから学びの質は高められると考えています。「つながり」を意識した対話により、どのような学びの質の高まりがみられるのかを追究していきます。今年度も、夏季研・研究発表会等で、提案内容を具体的にお見せしたいと思います。



三上祐佳里・沖香寿美・中西正子
須佐 宏・北川勝則・西村充司

生活科 「自立をめざして」

～生活科を中心とした教科・領域の学習～

今年度は、子どもたちが生活科で学んだことで「あっ、これ算数で使える!」、算数で学んだことを「これ生活科でやった!」など、教科・領域と関連している単元計画を作成し、生活科と各教科・領域との合科カリキュラムを構築していきたいと考えています。その中で、合科学習のあり方を考え、実践していきます。3年目となった“和み”カリキュラムを引き続き、実施していきます。

そして、秋には近畿生活科研究会が和歌山市で開催されます。夏季研修会などを通して、和歌山市生活科教育研究会とも連携し、研究をすすめていきたいと考えています。



大平陽子・居澤結美

音楽科 「比べる」ことでせまる音楽の魅力 ～思いや意図をもって表現できる子どもに～(2年次)

音楽科では、子どもたちが質の高い音楽的な力を身に付けるために「比べる」をキーワードに表現及び鑑賞の楽しい活動を通して、音楽の魅力にせまります。

思いや意図をもって表現できる子どもに育てるために、

- ①表現と鑑賞の活動において、「比べる」学習の筋道を明らかにします。
- ②集中して聴く活動から、言葉などで感じ取ったことを表せられるようにします。
- ③「比べる」活動を対話とリンクさせることによって、楽しみながら学びの質が高まることをめざします。



江田 司・田辺麻衣子

教科部★紹介

算数科 子どもがつなげる算数科学習 ～互いの考えによりそいながら～

算数的活動を取り入れ、子どもが互いに「つなげる」学習をめざして取り組んでいきます。今年度は特に低学年での算数科学習に重点を置き研究をすすめていきます。

子どもたちは自分の考えを具体物の操作、式や答え、絵や図を使って自分の考えを表現します。自分の考えを友達にわかりやすく伝えようとする中で自分の考えの根拠が明らかになります。自分の考えと同じところや異なるところに着目しながら友達の考えを聴くことでなぜそのように考えたのかを予想するようになります。互いの考えによりそいながら予想し、共感し、比較しながら検討していくことで学びの質が高まっていくと考えます。

夏季公開研修会・教育研究発表会等で交流できればと思います。よろしくお願ひします。



土岐哲也・宇田智津・市川哲哉

一人ひとりの学びの充実をめざして ～ひとり学習を全体学習の場面へ～

社会科

社会科では、全体学習の中で友だちの考えを聞き、自分の考えや思いを出し合う中での“学びの質の高まり”を目指しています。より深まる全体学習につながるためには、ひとり学習の充実を大切にしたいと考えています。昨今、社会的事象は複雑化し、「ひと・もの・こと」に関する価値観も大きく変化しています。社会の問題を自分にかかわりのあるものとして受け止め、一人ひとりがこだわりをもって追究していく学習をすすめていくことが大切です。

そんな願いをもちながら、子ども同士が対話をしながら、楽しく、きびしく社会科学習を深めたいと思っています。今年度は久しぶりに3名になりました。よろしくお願ひします。



松尾 光孝 片桐 宏 梶本 久子

理科 自然事象の本質をさぐる理科の学び ～省察する子どもを育てるなかで～

自然の中には、様々な情報が様々な状態で複雑に絡み合い、存在しています。昨年度までは、自然の“文脈”をさぐることで、その絡みを解きほぐし、学びをすすめてきました。本年度は、これまで自然の“文脈”をさぐる中でめざしていた自然事象の“本質”をさぐる理科の学びをつくっていきます。

理科部では、学習指導要領の改訂に際して、新単元の開発にも取り組んでいます。ぜひ、7月の夏季教科等別研修会や10月の教育研究発表会で一緒に考えていきましょう！



馬場 敦義・辻本 和孝・中西 大

教科部★紹介

体育科（学校保健）



上野佳彦・谷口佳都司・畠村誉子

体育科

仲間とともに 運動に親しむ子どもを育てる体育学習 ～豊かな吟味を生む支援のあり方～

子どもたちが運動の本質・真理や価値に迫ることができたとき、運動に親しもうとする姿勢が育つと考えています。対象（運動種目）・他者（仲間）・自己の対話の三位一体の活動における吟味に視点をあてて、体育授業のあり方について研究を進めていきます。

学校保健

今年は、夏季研と研究会の協議会を開催する予定です。研究をスタートさせた段階ですが、参会者の皆様から忌憚のない御意見を頂きたいと思っております。宜しくお願い致します。

家庭科 生活力を育む家庭科学習

～体験的な活動の充実を生活の実践につなげる～

家庭科学習では、製作実習、調理実習、比較実験等、体験的な活動の積み重ねを大切にしています。今年度はこのような活動を計画したり、予想したり、比較したり、振り返ったりという学習活動を、言葉にこだわって行うことで、子どもの思考をひろげていきたいと考えています。そして、自分なりの思いをもって生活への実践へとつながるような支援のあり方を研究していきます。子どもが将来にわたって、自分自身や家族の生活をより豊かに、より快適なものにできるような力を育てていくことをねらいとし、楽しく実践的な家庭科の学びをめざします。



藤原ゆうこ・大塚 誠子

探究する学びを創る

～多様な視点で考える子ども～

総合部

本年度の総合部のキーワードは、思考過程の可視化です。子どもたちの思いや考えの足跡をみえる形で表現するという事です。ただ、子どもたち自らが思いや考えを言葉、表や図で表すということだけではなく、それらをもとに友だちの考えや様々な調べ学習から導き出した理由や根拠をもった多面的な考察が必要なのです。

そこで、サブタイトルを「多様な視点で考える子ども」としました。ある一面からだけで対象を捉えるのではなく、多様な視点をもって対象にどっぷりとかかわることで、その価値や真理にたどりつくことができると考えました。多様な視点を子どもたちの中に生み出すために思考過程の可視化を行い、実践を通して研究を進めていきます。



山中昭岳 神山求実 藤原ゆうこ 辻伸幸

教科部★紹介

図画工作科 “感じる” ⇔ “表す” 学びの連鎖 ～子どもの「プロセス」をみる～

図工科では、感性を働かせて対象と向き合い、「感じる」ことと「表す」ことを繰り返しながら、学びの連鎖が生まれる学習を目指しています。

図工科において、感性を働かせて対象と向き合うこと、自己と対話することは欠かせない要素であり、それらは自分の表現、造形活動の軸になります。そこに友達との対話が絡み合うことで、自分らしい表現をつくるための大きな作用が生まれます。そして、材料や場所、活動を共有しながら、互いのよさを認め合う自然な交流を通して、自分らしい造形的表現を確かなものにしていくことで学びの質が高まっていく、そんな子どもの「プロセス」を大切にしながら取り組んでいきます。

今年度は和歌山市小学校図工教育研究会と夏季研修会等で連携していきたいと考えています。よろしくお願いします。



笠原 彩 ・ 西井恵美子

異文化コミュニケーションを積極的に取ろうとする 子どもを育てる外国語活動

外国語活動

本年度の外国語活動で大切にしていきたいのは「異文化コミュニケーション」です。外国語活動ですので、英語が中心となりますが、異言語はもちろんのこと国、地域、世代、性別なども異文化として捉え、コミュニケーションを進んで取ろうとするような子どもになって欲しいと願っています。また、自分たちの地域や国のことについても理解しながらコミュニケーションが取れるようにと思っています。さらに、外国語活動で完結するのではなく、総合的な学習の時間を有効に関連させて学びの質を充実したものにしていきたいと思えます。



辻 伸幸

複式教育部

主体的に学び合う複式教育 ～場の工夫による対話の深まりをめざして～

「異学年」「少人数」という複式学級の特性を生かした場の工夫による対話の深まりをめざします。そのためにも、少ない人数の中で共に学び生活する個人と個人のかかわりを重視していきます。

複式学級だからこそできるさまざまなペアや4人グループをどう授業で活かすのか考えます。さらに、対象や学年にあわせた場の工夫も考えていきます。そうすることで子どもたちのかかわり合いが深くなり、主体的に学び合う集団になると考えます。

そこから異学年、複式全体へと、一人ひとりのかかわりが広がっていくことを大切にしたいと考えます。



市川哲哉 三上祐佳里 西村文成

共同研究開発校

教科等	学 校 名	校 長	学 校 名	校 長
国 語	和歌山市立 新南小学校	本多加江子 校長	和歌山市立 浜宮小学校	野田眞知子 校長
	和歌山市立 高松小学校	川端 良幸 校長	和歌山市立 加太小学校	堀 優子 校長
社 会	和歌山市立 雄湊小学校	古川 博章 校長	和歌山市立 有功東小学校	小松 龍三 校長
算 数	和歌山市立 本町小学校	山本 明広 校長	和歌山市立 砂山小学校	辻 民子 校長
理 科	和歌山市立 宮北小学校	庄田 光伸 校長	和歌山市立 八幡台小学校	中村 民樹 校長
	和歌山市立 城北小学校	津田 成章 校長		
生 活	和歌山市立 有功東小学校	小松 龍三 校長	和歌山市立 宮北小学校	庄田 光伸 校長
音 楽	和歌山市立 雑賀小学校	三木 勇次 校長	和歌山市立 城北小学校	津田 成章 校長
図 工	和歌山市立 八幡台小学校	中村 民樹 校長	和歌山市立 吹上小学校	木村 秀年 校長
家 庭	和歌山市立 新南小学校	本多加江子 校長	和歌山市立 高松小学校	川端 良幸 校長
体 育	和歌山市立 中之島小学校	横瀬 勤 校長	和歌山市立 野崎西小学校	林 和美 校長
総 合	和歌山市立 有功東小学校	小松 龍三 校長	古座川町立 高池小学校	嶋原 和夫 校長
外国語 活動	和歌山市立 四箇郷小学校	出口 典子 校長		
複 式	田 辺 市 立 長 野 小 学 校	小 山 敏 幸 校 長		

STAFF

校 長	川本 治雄	副校長	沖 香寿美	教 頭	西村 充司
1 A	須佐 宏	1 B	宇田 智津	1 C	居澤 結美
2 A	田辺麻衣子	2 B	谷口佳都司	2 C	土岐 哲也
3 A	山中 昭岳	3 B	松尾 光孝	3 C	西井恵美子
4 A	北川 勝則	4 B	中西 大	4 C	梶本 久子
5 A	中西 正子	5 B	片桐 宏	5 C	辻 伸幸
6 A	藤原ゆうこ	6 B	上野 佳彦	6 C	馬場 敦義
1・2 F	市川 哲哉	3・4 F	三上祐佳里	5・6 F	西村 文成
音楽専科	江田 司	栄 養	神山 求実	養 護	寫村 誉子
理科専科	辻本 和孝				
講 師	大塚 誠子 (家庭・支援)		笠原 彩 (図工専科)		
非常勤講師	伊澤 亜紗 (養護)		糸川 良夫 (理科)		大野山慎二 (体育)
	大平 陽子 (図工・TT・支援)		北川 千晶 (図書館司書)		佐原ちづよ (書写)
	高瀬 優佳 (音楽)		藤田 裕子 (1・2年指導補助)		南出 苗央 (図工)
	Ernie Wakefield Elliott		Sullivan Matthew Crofoot		

From Editors

『らいぶ・創りえいた一』も10年目を迎えました。
「生き生きと本物を創り出すひと」という意味を
込めています。

本校ホームページにはカラー版を掲載しています。
ご意見・ご感想をお寄せ下されば幸いです。

編集委員：藤原，上野，梶本，松尾，江田

和歌山大学教育学部附属小学校

〒640-8137 和歌山市吹上1丁目4番1号

TEL (073) 422-6105

FAX (073) 436-6470

URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>

E-mail fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp